県　外　派　遣　報　告　書

審判員名（報告者）	竹澤　友美	所　　属	U12
大　会　名	令和８年度 関東高等学校女子バスケットボール大会		
期　　間	2026 年　6月１２日　～　１４日（参加日：両日）		
会　　場	横浜武道館/カルッツかわさき		

ス　ケ　ジ　ュ　ー　ル

期　　日	内　　容	場　　所
6月　１２日	審判会議、研修会	ZOOM 会議　参加者自宅他
6月　１３日	予選リーグ	横浜武道館
6月　１４日	決勝リーグ	横浜武道館

審判会議、研修会　講義内容

指名審判員：冨樫彰子氏、石鍋光智代氏、工藤雅子氏各人からこれまでの審判活動についてお話をいただきました。

担当試合①

期　　日	６月１３日（土）　Aブロック２回戦
対戦カード	八雲学園（東京）vs 土浦日大（茨城）
ク　ル　ー	CC：竹澤友美（埼玉）　U1：小野寺美帆氏（神奈川）　Ｕ２：竹園碧（東京）

ミーティング内容	審判主任：三野雅氏（東京）

ゲーム前の PGC

●ゲームテーマ【より高みへ】 －ＩＨ、ＷｉｎｔｅｒＣｕｐに向けて－チームの想いを汲んで

●ベーシックメカニクス、アウェアネスとディサイシブ、プレゼンテーションの意味と効果

ゲーム後のミーティング

●ゲームの様相がさらに変わった４Ｑ残り５分からのクルーの取り組みが良かった

●お互いにゲームのために協力し合える関係性を構築できる、ベンチとのコミュニケーションについて

●選手の解除があった場合のタイムアウトについて

担当試合②

期　　日	６月１４日（日）　Bブロック準決勝
対戦カード	東京成徳大（東京）vs 千葉英和（千葉）
ク　ル　ー	CC：竹澤友美（埼玉）　U1：雨宮恵（山梨）　Ｕ２：浅見好美（神奈川）

ミーティング内容	審判主任：冨樫彰子氏（指名）村上恵美氏（神奈川）

【このゲームを関東女性分科会女性審判研修ゲームとして使用】

ゲーム前の PGC

●ゲームテーマ【より高みへ】 －IH、WinterCup に向けて－チームの想いを汲んで

●ベーシックメカニクス、アウェアネスとディサイシブ、プレゼンテーションの意味と効果

ゲーム後のミーティング

●このゲームを見ての感想：①楽しかった！②ハラハラした！③自分も吹きたい！皆さんはそうですか？

●選手が倒れる play に対しての捉え方、ノーコールの判定の根拠

●ゲームテーマ通りの見応えのある素晴らしいゲームでした。皆さんも自分が CC で入ったときにもゲームを導くために管理、運営できる力をつけていってほしい

全体の感想

今大会では２日目の第１試合を使って女性審判研修会が行われました。同じゲームを同じ空間で見てゲーム後に話ができる貴重な機会となりました。コートに立っているレフリーの想いや、笛を吹くことだけではなくゲームを導くためのコミュニケーションなど共有できたことが嬉しかったです。

改めまして神奈川県の皆さんを始め、関係者の皆さまに御礼申し上げます。ありがとうございました。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	大野　紗佳	所　　属	U12 カテゴリー
大 会 名	令和８年度　第 80 回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会		
期　　間	２０２６年　６月１３日（土）　～　１４日（日）		
会　　場	横浜武道館・カルッツかわさき		

ス ケ ジ ュ ー ル		
期　　日	内　　容	場　　所
６月　１０日	審判会議	ZOOM 会議
６月　１３日	大会１日目	横浜武道館
６月　１４日	大会２日目	横浜武道館

審判会議、研修会　講義内容

指名審判員：

石鍋　光智代　氏（東京）

工藤　雅子　氏（茨城）

富樫　彰子　氏（東京）

レクチャー：

■工藤　雅子　氏

〈S 級を取得できた要因〉

①　環境

└県内に上級レフリーが多数、強豪のチームが多数

②　運

└出会えた人やタイミングが良かった

〈大切にしていたこと〉

・己を知る

└自分に足りないこと、課題を知る

└経験が足りない→たくさんゲームを吹いて、失敗もする

・頼れる図々しさ

└自分では解決できないことがあるということの理解

└映像を上級の方に一緒に見てもらう

└PGC の映像を撮らせてもらう

・強い思い（motivation）

└自分が本当に立ちたいステージを思い描く

└多くの方に助けてもらい今があるので、自分がその環境を作る側へ

■石鍋　光智代　氏

・A 級取得まで 8 年、S 級取得まで 8 年かかる

〈A 級からのもがき〉

・仲間、下の世代の昇格で焦る

・目指す人、場所、身近な上級を真似る→真似するだけではダメだと気づき、自分らしさを追求する

・所属が高体連のため、インターハイ予選を持ってバスケ人生を終える選手がいる→プレーヤーが良い気持ちで引退できるように

➡審判をするうえでの軸となる

〈S 級になって変わったこと〉 *今年で S 級になり 10 年、初めて WLG の CC を任されるようになった

・CC になってからは準備にかける時間が変わった

・改めて、ルールの理解、マニュアルの徹底、選手やチームの分析

・チームの声を聞くことをより意識するようになる

■富樫 彰子 氏

〈これまで取り組んできたこと〉

① 長期と短期の目標の明確化

「具体的 Action」「理想と現実」

現在地→1 年後→2 年後→3 年後

★PDCA サイクルを回す：特に、Check と Action

「できる」→なぜできた？「できない」→なぜできない？

➡具体的かつ明確にする（短期の目標）

〈大切にしてきたこと〉

自己分析：自分の現状を知ること

自分に素直なこと：背伸びせず、今の自分を受け入れる

自分に矛先を向けること：内容要因は変えられる、コントロールできる

➡積み重ねが自分の道を拓く

担当試合①		
期日	６月１３日（土）	
対戦カード	鵠沼（神奈川）vs 千葉経済大学附属（千葉）	
クルー	CC：赤羽 沙耶 氏（栃木） U1：竹園 碧 氏（群馬）U2：大野 紗佳（埼玉）	
ミーティング内容		審判主任：長谷川 裕 氏（神奈川）

▼ゲームの内容

・トスアップ後、どちらのチームコントロールがないままボールがベースラインの方まで転がり、ゴール下でヘルドボールシチュエーションになった。その際、コントロールがなかったことから、該当の2名で再度ジャンプボールを行い、ゲームクロックは一度10分にセットが戻ったが、ティップの時点でクロックは動いていることから、ゲームが止められた時間に戻して再開した

・ゲーム序盤から、どちらのチームもコンタクト多かった。

赤のチームは瞬間的なコンタクトこそ少ないものの、ずっと触れ合っている状態でのコンタクトが多く、吹きどころが難しいと感じた

一方で、白のコンタクトはシュートの所やボールマンへのイリーガルな手など分かりやすいものが多く、白に多く積んでしまうというゲーム展開だった

・その中でも前半は、オフボールの FOM を犯す様な手の使い方に対して、どちらにも同じ様にコールをすることで、メッセージ性のあるコールをすることができた

・3Q が重要なゲーム展開の中で、赤のキーとなる選手のコンタクトが気になりつつ、ファールが前半で 3 つ付いていたことから決めきれなかったが、質の悪いコンタクトだったためコールするべきだった

▼ゲーム後の講評

・前半、両チームの FOM を犯す手の使い方に対して同じようにコールしていたのはメッセージ性があって良かった

・トスアップでのケースはレアケースだったが、正しく処置ができていて良かった

・コミュニケーションに関して、もっとベンチの声を聞いてあげられると良かった

┗コールをした時もしなかった時も、ベンチが「ん？」となる時に目があうレフリーは信頼がある。目が合わないとストレスが溜まっていく

┗自分の判定に対する責任は、コールして終わりではなく、その後のリアクションに対する対応まで

担当試合②

期　　日	６月１３日（土）
対戦カード	作新学院（栃木）vs 日本航空（山梨）
ク　ル　ー	CC：長谷川 裕 氏（神奈川）U1：中澤 美保子 氏（神奈川）　U2：大野 紗佳（埼玉）

ミーティング内容	審判主任：赤羽 沙耶 氏（栃木）

▼ゲームの内容

・ゲーム序盤からレフリーのレポートミスや TO トラブルでゲームが止まってしまうことがあり、ゲームを不要に止めてしまうことがあった

・白には留学生がいたため、より丁寧に見ようとクルーで意識をしていた。留学生のシリンダーに入ってしまうコンタクトやショットに対する手のコンタクトはコンスタントに笛が入っていたが、逆に、白が留学生にボールをもらわせるために行うインサイド同士のバックスクリーンで、スクリナーの距離の近いイリーガルなスクリーンに笛を入れることができなかった

・ミート時のトラベリングやパーミングに関して、クルーで共通してどちらのチームにも判定ができたことはよかった

▼ゲーム後の講評

・点差が離れるゲームの中で、それぞれのチームの熱量やゲームに対する目指すところの違いが目立つゲームだったのでコントロールは難しかったと思うが、適切に笛が入っていたと思う

・たまに、視野が限定的になることがあり、オフボールで起きている現象を捉えきれていないことがある

・TO 管理をもう少しスムーズにできるとよかった

全体の感想

このたびは、関東高校女子バスケットボール選手権大会へ派遣いただきありがとうございました。年に１度、関東の女性レフリーが多く集まるこの大会に今年も参加させていただくことができ、とても刺激的で有意義な時間となりました。

2 日目の第 1 試合で実施いただきました女性審判研修会では、対象ゲームをいろんな都県の方々と意見を交わしながら見たり、試合後にはクルーと主任含めてディスカッションしたりと、とても貴重な機会でした。ディスカッションの中では、ゲーム中クルーで共有されていた話や、セカンダリでコールしたケースの心情などを聞くことができました。

そしてこの 2 日間は、レフリー技術だけでなく、日々活動ができている環境や支えてくださっている方への感謝などを改めて感じる時間でした。何不自由なく活動ができている環境に感謝し、これからも審判活動に励んでいきたいと思います。

最後になりますが、このたび派遣いただいた埼玉県審判員長の若林様をはじめとする指導員の皆様、大会の開催にあたり準備、運営をしてくださった神奈川県バスケットボール協会および神奈川県審判員の皆様、割り当てクルーや TO 役員、その他大会に関係するすべての皆様に改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	廣戸　理子	所　　属	U15 カテゴリー
大 会 名	令和　8　年度　関東高等学校女子バスケットボール選手権大会（神奈川県）		
期　　間	２０２６年　6月１３日　～　１４日（参加日：6月１３日）		
会　　場	カルッツかわさき・横浜武道館		

ス ケ ジ ュ ー ル		
期　　日	内　　容	場　　所
6月１０日(水)	審判会議、研修会	ZOOM 会議　参加者自宅他
6月１３日(土)	１回戦・２回戦	カルッツかわさき
6月１４日(日)	準決勝・決勝（見学）	横浜武道館

審判会議、研修会　講義内容

【指名審判員】

工藤　雅子　様（茨城県）

石鍋　光智代　様（東京都）

富樫　彰子　様（東京都）

『指名審判員の皆様がこれまでに取り組んできたこと・大切にしていること』

● 工藤　雅子　様

１．環境　→県内に目標とする存在や、W チーム、大学１部チームなどがいたことで経験を積むことができた。

２．運　→環境や仲間に恵まれ、「運」が良かった。その運を逃さないという気持ちや、日頃から運をためる行動をしている。

３．自己分析　→経験を積む中で己を知る。時には図々しさも必要。自分が立ちたいステージのイメージを持ちながらも感謝の気持ちを忘れない。「次はない」という崖っぷち精神でチャンスを逃さない。

レフリーを通して、人とのつながりや様々な経験によって成長、バスケットへのかかわり方が変化　→**人生が豊かになった**

● 石鍋　光智代　様

「誰かを真似るだけではだめ」　→自分らしさを大切にするようになった。

１．自分が納得できるまで準備をする

２．準備したものをコートで表現する

３．振り返る　　この３つのサイクルをとにかく繰り返す

Ｓ級になってからは**準備にかける時間**に変化があった。

失敗した後にどうするか、チームの声を聴く、仲間や自分を大切にする。全員がバスケットに夢中になれるように。

●富樫　彰子　様

「一つひとつの積み重ねが自分の道を拓く」

１．目標を明確化する（長期目標・短期目標）

２．ＰＤＣＡサイクル　→特にＣＨＥＣＫとＡＣＴＩＯＮを大切にしている。

「なぜできたのか」「なぜできなかったのか」

自分に素直であること、自分の現状を知ること、自分に矛先を向けることで**自分は変えられる**

【最後に】

よい準備をすること。上級が集まるこの機会を大切に。チャンスを逃さない。全員がともにいい時間を過ごせるように。

担当試合①	
期　　日	6月１３日（土）　１回戦
対戦カード	藤村女子高等学校（東京都）vs 幕張総合高等学校（千葉県）
ク　ル　ー	CC：鈴木　幸恵氏（神奈川県）　U1：廣戸　理子（埼玉県）　U2：海老澤　美羽氏（群馬県）

ミーティング内容	審判主任：中嶽　希美子氏（千葉県）

▶ゲーム前の PGC

◎チーム情報の共有　◎ルール、メカニクスの確認　◎ゲーム中に大切にすること　→①コミュニケーション　②役割分担

▶ゲーム後のミーティング

１Ｑ：試合の始まりから両チームともかなりの熱量でプレーしており、タフなゲームになると感じた。Def の距離の近さや手の使い方は、早めに整理しなければならないことだとクルーで共通認識があった。開始早々に怪我人が出てしまい、メンタルが左右されそうな場面でも、切り替えて自分の目の前の判定に集中できたことはよかった。

２Ｑ：手の使い方、ポストアップ、リバウンド、スクリーン、バイオレーション(トラベリング、３秒等)、とにかくベーシックに明らかなものを判定し、積み重ねていくことができたと感じる。ベンチや選手にメッセージとして伝わる笛の工夫が必要

３Ｑ：個人ファウルの個数や、これまでお互いがコールしたもの、気になることを整理したうえで進めることができた。しかし、本当にバイオレーションなのか、ファウルをされたことによってそうなってしまったのかなどの吟味や確認、ベンチの思いやゲームフローを感じ取ることについては課題が残った。

４Ｑ：ターンオーバーが多くなった中でも、ショットクロックやアローの確認など最後までクルーや TO と協力しながら進めることができた。EOG ではプライマリではなかったが、クルーが鳴らせない状況と勝手に判断してしまい、鳴らしてしまった。結果２人で鳴ってしまい、ゲームの終わらせ方に悔いが残った。クルーとアイコンタクトの上判断しなければならないと反省。

《審判主任より》

・トラブル等で、ゲームが止まってしまった時こそ、レフリーとしての腕の見せ所

→クルーで協力、役割分担を明確にすることが大切(怪我人対応、クロック管理や修正、ベンチとのコミュニケーション、再開方法)

CC だけではなく、全員が CCM を持つことや、何かあった時にそれぞれが答えをもっておけるようにする。

・どのタイミングで、どちらのチームに、何を吹くか

→ファウルの積み方の工夫、「セイムコール・セイムジャッジ」、ベンチや選手が今何を思っているのかを感じ取る。よりベンチや選手に伝わる笛はどのようなものかを考える。

・クルー全員が準備をしてゲームに臨んでいること、ゲーム中に気にしていることは、後半から伝わってきた。それが後半からではなく、前半からにするにはどうしたら良いのか、振り返って考えてほしい。

・笛の大きさ、プレゼンテーションは良かったので続けてほしい。

全体の感想

はじめに、神奈川県バスケットボール協会及び神奈川県高体連バスケットボール専門部の皆様、指名審判員の皆様、各都道府県の派遣審判員の皆様には多くのご配慮をいただき、ありがとうございました。

これだけ多くの女性審判員が集まる唯一の大会に参加させていただけたこと、上級審判員と近くでコミュニケーションを取らせていただけたこと、目の前でレフエリングを観ることができたのはとても貴重な経験となりました。この２日間で特に強く感じたことは「つながり」です。オンザコートには選手・監督・チームに携わる多くの人の思いがあり、私たちはその思いと覚悟をきちんと理解したうえで判定をし、次につなげていかなければならない。また、共に切磋琢磨してきた仲間、TO などゲームに関わるすべての人、そして今ある道をつくってきてくださった諸先輩方の意志をしっかりと受け取り、つなげていく責任があると改めて強く感じました。今回の大会で感じたこと、見たこと、そして「つながり」を大切に今後も審判活動に精進していきたいと思います。

最後になりますが、今回の派遣にあたり、大変お世話になった神奈川県バスケットボール協会の皆様、派遣をしてくださった埼玉県審判長若林様をはじめとする指導員の皆様と日頃ご指導してくださる皆様に、心より感謝申し上げます。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	山宮　紅葉	所　　属	社会人連盟
大 会 名	令和８年度　関東高等学校女子バスケットボール大会		
期　　間	２０２６年　６月１３日～１４日（参加日：６月１３日）		
会　　場	横浜武道館、カルッツかわさき（川崎市スポーツ・文化総合センター）		

ス ケ ジ ュ ー ル		
期　　日	内　　容	場　　所
６月　１０日	審判会議、研修会、開校式	Zoom 会議、参加者自宅他
６月　１３日	A ブロック、B ブロック１.2 回戦	横浜武道館、カルッツかわさき（川崎市スポーツ・文化総合センター）
６月　１４日	A ブロック、B ブロック準決勝、決勝	横浜武道館

審判会議、研修会　講義内容

●令和８年６月１０ 日　１９：００～　審判会議

○１はじめに。　　神奈川県バスケットボール協会　専務理事　　河内健一氏より

・高いレベルのバスケットの審判をしていただける、非常に有意義な大会であるため、審判員の皆様には実力を遺憾なく発揮していただきたい。

・会場の移動について。

○２神奈川県審判長挨拶　　神奈川県バスケットボール協会　審判グループ長　茂泉圭治氏より

・位置づけやゲームレベルを考え、良い準備をして大会に臨む必要がある。

・会場や移動について。

・試合時間も会場ごとに異なり、TO に関しても強化や育成を行っている。TO は高校生が行い、試合前は TO ミーティングを行う点について。

○３関東協会審判長挨拶　　関東バスケットボール協会　　審判委員長　平原勇次氏より

・今大会において、各県のトップレフリーが集まる。

・この後の研修についても受け取る側がどう受け止めるのか、どう感じ取るのか、それが大事。

○４指名審判員紹介紹介・レクチャー

▶１.指名審判員　工藤雅子氏（茨城県　バスケットボール協会 Ｓ級審判員）より

▷環境に恵まれていた。

県内に上級審判員が多く、強豪校も存在するなど、恵まれた環境の中で経験を積むことができた。

・環境や仲間、先輩方との出会いなど、多くの「運」に支えられてきたことへの感謝を大切にしている。

▷どうやって審判活動に取り組んだか。

・自身に不足している課題を把握し、必要に応じて周囲の力を借りながら解決していくことが重要である。

▷モチベーション　自分の気持ちを感謝の気持ちへ。自身がその環境を作る側になることが恩返しになる。

・自分が立ちたいステージを明確に描き、覚悟を持ってチャンスを逃さない姿勢が成長につながる。又、感謝の気持ちを持ち続け、その環境を次世代へ還元することが恩返しになる。

・年齢に関係なく挑戦し続け、仲間とともに成長していくことの大切さ。

・第二のバスケット人生を価値のある活動とし、共に成長していきましょう。

▶２.指名審判員　石鍋光智代氏（東京都　バスケットボール協会　Ｓ級審判員）より

▷A 級、S 級になるまで。

・A 級、S 級への昇格には年月（8 年）を要したが、目標を持ち続けて努力を重ねてきた。小学校教員との両立

A 級からのもがき。仲間や世代について悩むこともあった。目指す場所、身近な上級審判員から多くを学び、自身の目指す姿を具体的に描いてきた。

・自分自身を受け入れ、自分らしさを持ってコートに立つことの重要性を感じた。その点が、自身にとって思いの糧となった。

・高体連の試合を、確認とチャレンジの場として大切にしている。

・選手が最後までバスケットボールを楽しめる環境づくりを意識している。

▷S 級になってから。

・S 級になって 10 年、W リーグのＣＣを担当することにもなった。

・試合準備として、ルールやマニュアルの理解だけでなく、チームや選手の分析を重視している。

・クルー、選手、コーチ、観客など様々な立場の声に耳を傾けることで、視野を広げることの大切さを学んだ。

・仲間や自分自身を大切にしながら、審判活動を楽しむことが成長につながる。あらゆる可能性のために。

▶３.指名審判員　冨樫彰子氏（東京都　バスケットボール協会　Ｓ級審判員）より

・S 級審判員としての経験（ＣＣ、Ｕ１、Ｕ２）の中で、日々の積み重ねを大切にしてきた。

・長期目標（１、２、３年後はどうすれば良いか考え、その点を行動に移す）を設定し、その達成のために段階的な行動計画を立てることが重要

・Check（自己分析）と Action（改善行動）を繰り返し、自身の現状や課題を把握することが成長につながる。

→PDCA サイクル（PLAN―DO―CHECK―ACTION）

・「積み重ねが自分の道を拓く」、それぞれの経験や知識の積み重ねが轍となってあらわれる。

・自身の現在地を知り、都県を支える審判員としての役割を自覚することが大切である。

→「できる」なぜできた？　「できない」なぜできない？を考える。

→自己分析→自身の現状を知ること。「できる」「できない」を具体的かつ明確にする。【自分に素直なこと】【自身に矛先】

・選手たちが全力を発揮できる環境をつくることが審判員の重要な役割であることを再認識

○５審判割り当て確認

○６代表者会議伝達事項　「試合に関する確認事項（審判）」 →Google ドライブ内格納

○７女性審判研修会　　実施概要、内容、その他ＩＲについて。

○８連絡事項　　会場、TO、ホテル、移動、食事、懇親会について。

●令和８年６月１０日　２０：０３～　開校式

●令和８年６月１４日　１０：４０～　女性審判研修会

大会２日目　B ブロック準決勝 【東京成徳大学高等学校（淡）vs 千葉英和高等学校（濃）】にて実施

▶試合前の PGC

ベーシックなポジショニングやフロアカバレージの確認。選手情報

この試合のテーマ「さらなる高み」

▶試合後のミーティング

○ケースプレーについて

→ケースプレーの検討においては、「判定が正しいか誤っているか」という観点ではなく、メカニクスや見方・捉え方の観点から振り返ることの重要性について。

○ゲームマネジメントについて

→ゲーム終盤のショットに対するファウルの判断について、ゲームプランや試合の終わらせ方を意識しながら対応していく。

→オフェンスファウルをはじめとする判定において、「どの場面で決断するか」が重要である。

→センターのポジションや視野の確保、TO の確認、ゲームコントロールなど、試合全体を管理する意識について。

○ゲームを進めるにあたって

→接触や転倒が多い場面においては、イリーガルコンタクトなのかフェイクなのかを適切に見極めることの重要性について共有

○クルーワークについて

→ベンチからのアピール等については、外部から見ただけでは分からない試合中の雰囲気や温度感があり、クルー内での共有が重要であることを学んだ。

→プライマリーを尊重する一方で、クルーワークとして必要な場面では互いにサポートし合うことの重要性について共有

◎クルーのテーマである「さらなる高み」について触れられ、どのようなレフェリーを目指すのか、そのために何を積み重ねていくのかを常に考えながら取り組むことの大切さについてご指導いただいた。

担当試合①

期　　日	６月１３日（土）　B ブロック１回戦
対戦カード	県立竜ヶ崎第二高校（淡）　vs　宇都宮文星女子高等学校（濃）
ク　ル　ー	CC：下島　清花氏（神奈川）　U1：山宮　紅葉（埼玉）　U2：中嶋　瑠菜氏（千葉）

ミーティング内容

▶ゲーム前の PGC

・フロアカバレージの確認とプライマリー（T、C、L）

・EOQ と EOG について　　→丁寧に確認して行っていく。

・ディフェンスのシリンダー　　→事前にスカウティングで得ていた DF の特徴について。

・クルーでそれぞれの課題にトライ

・各チームのスカウティング共有　→事前に得ていた OF と DF の仕方や特徴、各チームの選手情報、ベンチコントロール

▶ゲーム後のミーティング

・クルーより試合を終えて。　→処置ミス、プライマリーをそれぞれが超えた点があった点、延長戦

・プライマリーの確認

・いくつかのケースの確認

→処置ミスあり。なぜそうなってしまったのか。（ボーナス FT を与えるべきタイミングで与えられなかった。）

→ベンチコントロールにおいてワーニングを入れたケース。

全体の感想

はじめに、今大会の開催にご尽力いただきました神奈川県協会の皆様、派遣していただきました埼玉県協会の皆様に感謝申し上げます。

ゲームを担当させていただく中で、自身の立場だけでなく、チーム、コーチ、選手、観客の皆様がバスケットボールを全力で楽しめるようなゲーム運営を意識し、コートに立ちました。また、審判会議において指名審判員の方々から、「自分が立ちたいステージを明確に描き、覚悟を持ってチャンスを逃さない姿勢が成長につながること」「様々な立場の声に耳を傾け、視野を広げることの大切さ」「自己分析の重要性」についてお話を伺い、自身の審判活動について改めて深く考える機会となりました。

関東大会が始まり、各都県の審判員との交流を通して、自分と同じ目標を持ち努力を続けている仲間が数多くいることを実感しました。私自身も自覚と責任を持ち、広い視野でゲームに向き合えるよう準備を重ねて大会に臨みました。 ゲームでは、ベーシックなメカニクスの徹底を意識するとともに、チームの特徴やゲームの流れをクルーで共有しながらゲームマネジメントを行いました。クルー間で積極的にコミュニケーションを図ることができたことで、最後まで安心して判定に集中することができました。一方で、自身の課題も多く見つかり、講評でいただいたご指導を真摯に受け止め、今後のゲームで改善していきたいと感じました。

さらに、女性審判研修会ではディスカッションの機会をいただき、「どのようにゲームを進めるのか」「見心地の良いゲームをつくるため

には何が必要か」について考えることができ、大変有意義な学びとなりました。 大会 2 日目には、フロアで試合を観戦する中で、選手やチームを全力で応援する保護者の方々の姿が強く印象に残りました。熱い思いを言葉にしながら声援を送り続ける姿から、人の心を動かすバスケットボールの素晴らしさを改めて感じました。 今回、この舞台に立たせていただけたことへの感謝の気持ちを忘れず、今後も謙虚な姿勢で学び続けながら、より良いゲームを創ることができる審判員を目指して努めてまいります。

最後になりましたが、今回の派遣にあたり、大変お世話になった神奈川県バスケットボール協会に皆様、又今大会へ派遣してくださいました埼玉県協会の皆様と、日頃活動でご指導してくださる皆様に、心より感謝申し上げます。 この経験を連盟や、県内での活動に還元できるよう、研鑽を重ねて行きたいと思います。 引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	中田　愛	所　　属	U18 カテゴリー
大 会 名	令和８年度　関東高等学校女子バスケットボール大会		
期　　間	２０２６年　6月１３日　～　１４日（参加日：６月１３日）		
会　　場	横浜武道館・カルッツかわさき		

ス ケ ジ ュ ー ル		
期　　日	内　　容	場　　所
6月　１０日	審判会議、研修会	ZOOM 会議　参加者自宅他
6月　１３日	１・２回戦	横浜武道館・カルッツかわさき
6月　１４日	準決勝・決勝戦	横浜武道館

審判会議、研修会　講義内容

●指名審判員レクチャー

東京都バスケットボール協会 S 級審判員　富樫彰子氏（東京都）

東京都バスケットボール協会 S 級審判員　石鍋光智代氏（東京都）

茨城県バスケットボール協会 S 級審判員　工藤雅子氏（茨城県）

●レクチャー

指名審判員の方々から上級になるまでの道のりや当時の葛藤などお話いただいた。

その中でも自分に素直になることの大切さ、周囲と支え合いながら取り組める環境に感謝することなど、どんな立場になっても審判員である前に人として大切なことを当たり前にされていることが全てバスケットボールに繋がるんだと改めて実感することができた。

工藤氏

己を知る→自分に足りないこと、課題を知る、メカニクスやルールの理解

頼れる・図々しさ→自分では解決できないことがあるから、映像を一緒にみてもらう

強い思い→自分が本当に立ちたいステージを思い描く、行動することの大切さ

チャンスを逃さない→崖っぷち精神（次はないという覚悟）

モチベーションは自分の目標で、上級となり恩返しをしていきたい、逃げるわけにはいかないという思い★感謝の気持ちは忘れない★

年齢なんて関係なく、幾つになってもチャレンジできる⇨色々な経験が自分を成長させてくれる

石鍋氏

A 級→8 年　S 級→8 年

A 級から一緒に頑張る仲間や下の世代で頑張っている人がいて頑張ろうと思う反面、もがくこともあった

自分の周りには目指す人や場所が近くにあったから身近な上級を真似していたが、真似しているだけではいけないことに気づいた

IH 予選で引退する選手も多く、最後にバスケットボールを嫌いになって終わってほしくないという思いがある

コートに立つ責任があるからこそ徹底的に準備をする⇨観客・選手・チーム・審判の誰もがバスケに夢中になって欲しい

富樫氏

S 級→12 年目

１つ１つの積み重ねが大切

長期と短期の目標を明確化→自己分析をする

自分の現状を知り、自分に素直になる→自分に矢印を向ける（できる・できないがわかる）ことで自分の道を拓くことができる

担当試合①	
期　　日	６月１３日（土）　Ｂブロック１回戦
対戦カード	相模女子高等学校（神奈川）vs 都立駒場高等学校（東京）
ク　ル　ー	CC：中田愛（埼玉）　U1：山本渚氏（茨城）　U2：白銀菜々氏（千葉）

ミーティング内容	審判主任：小澤朋克氏（群馬）

▶ゲーム前の PGC

ベーシックなメカニクス・プライマリーの確認、チーム情報の共有

▶ゲーム後のミーティング

＜主任より＞

・１Q の初めでテンポセットはしていたかもしれないが、不用意に当たってしまったのではといったものに笛が入っており、もっとメッセージ性のある現象があった。

・ラインのプライマリーについて、W ホイッスルになった時にどちらが持っていくかより確認するべき。

・ゲームクロックやショットクロックはクルーで丁寧に確認しながら行なっていたことがよかった。

・パーミングを取り上げるなら全部取りあげた方がよかった。

＜個人の反省＞

・CC として１ゲームの基準をもっと強く示せるようにならねばと感じた。

・クルーがいま何をみていて、どんな状態なのか理解し、その状態も含めてゲームをコントロールすることの難しさを実感した。

・選手やチームとコミュニケーションをとりながら、クルーでもすぐに情報共有を行いゲームを終わらせることができたのはよかった。

・手の使い方やリバウンドへの絡み方など１ゲームを通してわかりづらい基準となってしまった。

→クルーが何を吹いているのかもっと感じて、同じように積み重ねるべきだった。

全体の感想

指名審判員の皆様よりレクチャーいただいた内容は、今の自分と重なる部分が多く、皆様も通ってきた道だということがわかりとても励みとなりました。

１ゲーム通してクルーで基準を示していくことの大切さと難しさを改めて実感しました。CC として情報共有することだけではなく、基準を強く示していくことやクルーが何をみてどう感じているのか感じ取ることが課題であると感じました。

また、関東の女性審判員の方々が多く集まる機会で、短時間でしたがたくさんの上級のお話を聞くことができてとても充実な時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、このたび派遣いただきました埼玉県審判委員長若林様をはじめとする指導員の皆様、大会の開催にあたりご準備、運営をしてくださった神奈川県バスケットボール協会及び神奈川県 Ｕ１８ カテゴリー審判部の皆様、指名審判員の皆様、割り当てクルーや TO 役員、その他大会に関係するすべての皆様に改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。

※派遣報告書は、派遣行事終了後の翌木曜日を目処に PDF 化して、下記へ送付をお願いします。

宛先；sbareflicense2020@gmail.com

CC；審判部長、各カテゴリー長